



朝に晩に見ている
神社に、
敬意をもって
奉仕する。

火の国阿蘇の
恵みのブランド

火
zen
A s o C i t y

火を起こし、石を噴出させる恐るべき火山神であるとともに、この地域を開き、農の幸を興した農業神でもある阿蘇神。風格あふれる「肥後国一の宮」阿蘇神社には

無事安寧のための警護団が控えている。現在は、七人の侍。親方(団長)を任じられているのが吉田満範さんです。

ふだんは農事にいそしむ。米をつくり、山野草を育て、庭師としても腕をふるう。

そして、正月からはじまって、季節の祭事ともなれば、人びとの福を呼ぶ儀式が滞りなく進行するため、

神社の警護に立ちます。早春に繰り広げられる火振り神事では、

火のついた茅の松明を先頭に立って打ち振る。警護団の華だ。「阿蘇神社は朝に晩に目にしており、やはり特別の思いがあります」

狭義の信仰というより、いわば愛情に近いもの。だから奉仕する。穏やかな表情が、警帽をかぶると「転してサムライの風情に。」

阿蘇神社警護団 吉田満範

あるがまま、という貴さ。
人と自然が共作する阿蘇。